H21年度　前期　紀南サテライト大学院授業科目

授業科目名	熊野の近代ツーリズムと風景認識		
単位数	2	授業形態	講義
担当教員	島津　俊之		
実施日・時間	7月17日(金)　17：30～20：40		
	7月18日(土)　9：30～15：00		
	7月24日(金)　17：30～20：40		
	7月25日(土)　9：30～16：40		
	7月26日(日)　9：30～16：40		

【講義内容】

「熊野」と称される紀伊半島南部は、平安中期から近世にかけては熊野参詣や西国三十三ヵ所巡礼の通過地あるいは目的地であり、様々な地域から熊野を訪れる様々な階層の旅行者にとって、ある種の宗教的聖地として認識されてきました。しかし近代に入って、国土軸を中心とする陸上交通の発達に遅れをとった熊野は、明治後期頃までは逆に近代ツーリズムのまなざしから外れた辺境として取り残される結果となりました。熊野に近代ツーリズムのまなざしが本格的に注がれるようになったのは、明治30年代に大阪商船が陸上交通の代替としての紀州航路に進出し、大阪や名古屋からのアクセスが相対的に改善されてからでした。この動きと並行して、熊野の内部からも、熊野の風景美をいわば「再発見」するかたちで、その普及・顕彰に努めようとする動きが起こってきました。この後者の動きを代表するのが、新宮に本拠を構えた久保写真館です。久保写真館は『熊野百景写真帖』や『熊野百景』などの写真集やガイドブック、そして「紀伊熊野百景」の風景絵はがき集などを次々と製作・販売しました。また久保写真館は、地元の保勝会などが刊行したガイドブックや絵はがき集、新宮出身の文豪佐藤春夫の著書や小学校の副読本、果ては『大日本地誌』や『日本地理風俗大系』といったアカデミックな地誌書に至るまで、多種多様なメディアに多くの風景写真を提供し、熊野の風景美を世間に広める役割を果たしました。獅子岩・橋杭岩・紀の松島・瀞峡・奥瀞峡などの風景地も、久保写真館の写真がその観光名所化に大きな役割を演じています。昭和戦前期になると紀勢西線が延伸され、白浜温泉の開発や日本八景のイベント、吉野熊野国立公園の指定なども手伝って熊野への観光客はさらに増加してゆきました。こうした近代ツーリズムの進展のなかで熊野は、その宗教的聖地としての過去を強調する〈癒しの地〉とか〈霊異の地〉などといった現代の認識とは異なり、神武天皇東征説話や院政期の熊野参詣と絡めた国家権力にとっての枢要な風景地として、あるいは白浜や勝浦の真新しい旅館群や瀞峡めぐりの最新のプロペラ船などと絡めた〈モダン〉な風景地として認識されてゆきます。この講義では、以上のような、明治初期から昭和戦前期に亘る熊野の近代ツーリズムと観光地の風景認識の成立・変化・浸透という問題を考えてゆきたいと思います。最終日には、田辺・白浜近辺へのフィールドワークを行い、絵はがきや写真集にみられる過去の風景認識と現在の風景の異同についてディスカッションを行う予定です。授業予定は以下の通りです。

〔7月17日(金)〕　1．近世の熊野の風景認識
　　2．明治前期の熊野の紀行文と地誌
〔7月18日(土)〕　3．熊野の近代と紀州航路
　　4．久保写真館の活動と「熊野百景」
〔7月24日(金)〕　5．ガイドブックや写真集・絵はがき集の刊行と販売
〔7月25日(土)〕　6．風景の見方の変化と観光名所化
　　7．新たな風景地や観光名所の成立
　　8．鉄道交通の発達と近代リゾート開発
〔7月26日(日)〕　9．田辺・白浜近辺でのフィールドワークとディスカッション

【テキスト・教材】

テキストは使用せず、プリントを配布して講義します。

【事前学習】

特に必要ありません。現代の熊野イメージと近代のそれとの異同に関心を持つ方の積極的な受講を期待します。